

学校だより

加茂野小学校

学校の教育目標

豊かな心とやりぬく力をもつ加茂野の子
考える子・優しい子・元気な子



「自分のよさを出し切り自己表現する子の育成」をめざして

加茂野小学校長 堀部 昇

令和6年度がスタートしました。私たちは、本年度も『出し切る』という合言葉を掲げて歩んでいます。その先に見たい人物像。例えばそれは、今を時めく大谷翔平さんが重なります。私の知るところの彼は、高校から現在に至るまでの想像をはるかに超える歩みと学校にグローブを寄贈してくれたこと（感謝）。彼の本を1冊読んだということ。そして、ドジャースでの毎日の活躍を心なしに期待し、応援している私がいることです。

彼について、強く思いあこがれることは、「常に自分と向き合い、失敗を恐れず、未来に向かって、力強く駆け抜けている生き方とその過程で形成された人間性」です。きっと、小学校時代にも、常に持っている力を発揮し、さらにそれが当たり前のように継続されていたのだと想像できます。加茂野小学校の子供たちを目の前にして、まさに、大谷さんのように、夢をもち、未来に向かい、今、できるかぎりの生き方のできる子供にしたいと考えています。

だからこそ、小学校では、今持っている「自分のよさを出し切る姿」を子どもたちと一緒に高めていきたいです。また、学校生活には様々な場で、自己表現する場があります。「登下校の様子」「挨拶の仕方」「授業への向き合い方」「仲間への関わり」…。これらすべてが自己表現の場です。

学校生活における「出し切る」積み重ねと「自己表現」の積み重ねが、きっと自分自身の自信につながるに違いありません。そして自分自身が好きになるきっかけにもなるでしょう。さらには創造性を生み出す原動力になるかもしれません。また、仲間と仲良く生活し、高め合い、一緒にいる喜びを感じ、友達の存在のありがたさ（あなたがいるから、私は頑張れる）を感じる瞬間へとつながるかもしれません。気が付くと、自分の存在が、自分の周りの人を幸せにしていることが実感できることでしょう。

私たちはそんな子供にしたいと願っています。

本年度加茂野小学校では、今日に見通しとやる気をもち、明日に希望のもてる学校生活を実現し、誰もが「自分のよさを出し切り、自己表現する子」をめざして歩んでいきます。



4/17 児童会代表者の認証式で、児童会長の加塩さんはじめ、各委員長さんが全校に「こんな学校にしたい」と自分の願いを自分の言葉で語る（出し切る）ことができました。